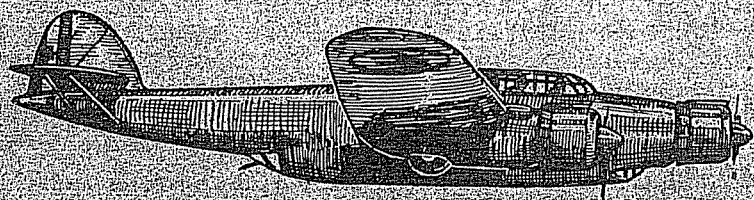


KÔKÛTISIKI

航空知識



4

第七卷

第四號

航空知識社

航空知識
昭和十一年三月十日印刷
昭和十一年四月十日發行
第七卷第四號
昭和十一年三月十日發行
三冊三冊三冊

滯 歐 雜 記 帳 (その十二)

工 學 士 山 本 峰 雄⁽¹⁾

9. ヒットラー青年團との一日

獨逸の將來を背負ふ有能なる青年を教育する國家的組織としてのヒットラー青年團は世界的に餘りにも有名である。

「現代は炬火に憧憬する大學生のロマンスを要求しない。僅か 17 歳位の年若い青年が人生の意義に關し、理論づくめの、而して何等實踐の伴は

ない討論を行つたからとて如何にして興味や理解が持てようか。ワンダー・フォーゲルの各種の聯盟の指導者等の多くは専ら理髮店に赴かないのを原則とした。……彼等は今日最早存在し得ない一



第 1 圖 プタの風光

つの時代に生きて來たのである。彼等は技術や勞働青年に對して何等の立脚點をも持つて居ない。多くはブルジョアの遊戯である。旅行と通歴が彼等の表徴であるとすれば、職業試練こそはヒットラーユーゲントの表徴である」と云ふのは今次の大戦にヒットラー青年團の指導者の職を抛つて祖國の難に赴いたシーラツハの言である。斯くしてナチス政權の持つ新しい世界觀の下に國家の爲に自己を完成する青年の修養團體たるヒットラー青年團が舊時代のワンダー・フォーゲルに代り、第

(1) 航空研究所

三國家の成長の爲に闘ふ事となつたのである。

シーラツハの言に在る如くヒットラー青年團は正に職業試練に依り國家の爲に自己を完成するのである。其處に一般訓練と共に將來獨逸國家に有益なる奉仕を行ふ爲に航空スポーツ班(Luftsport-scharen der Hitler-Jugend 或はFlieger-Hitler-Jugend)が生れ、海上スポーツ班(Marine-Hitler-Ju-

gend)が生じ、通信班(Nachrichten-Hitler-Jugend)、自動車スポーツ班(Moter Hitler-Jugend) 建築家及技術教育班(Hitler-Jugend-Ausbildungswerk für Architektur und Technik)が生れても不思議はないのである。そして全ては軍隊の豫備教育を主題として職業教育を兼ねて居る。

「獨逸の青年には他國の青年の國防教育に於けるが如く武器を持たせるべきでもなく、又武器を持たせないであらう。然し乍ら彼等には他の三大目標が與へられる。男子の最高道德の獲得、最良なる身體機能の獲得、山野の完全なる支配である」とはヒットラー青年團の上級指導者の言である。先づ自然人としての完成が人生の最初の教育とされて居るヒットラー青年團が山野の征服を重く見る

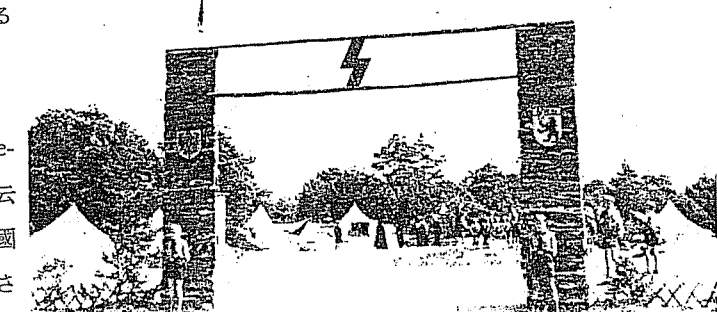
のは當然である。

斯くて獨逸の山野に靜寂な夏を迎へるとヒットラー青年團は各地に幕營の訓練を受ける。幕營こそは現代の青少年生活に於ける最大の教化力であるといふ信條の下に風光明媚の地方を選んで祖國の山野の上に旅行と行進、測圖方位判定、感覺の練磨、地形判断、目標判断、地形の利用、偽裝、敵前運動、偵察警戒等の多様の訓練が行はれ、更に獨逸特有の野外競技、體育、空氣銃射撃等の軍隊豫備教育が實施され、之等を通じて、勇氣の涵養、不撓不屈、協同一致、の精神が培はれる。我國古來の尙武の風、上長尊敬の氣、祖國愛を多分に其の教育の中に折込んで居る事は云ふ迄もない。

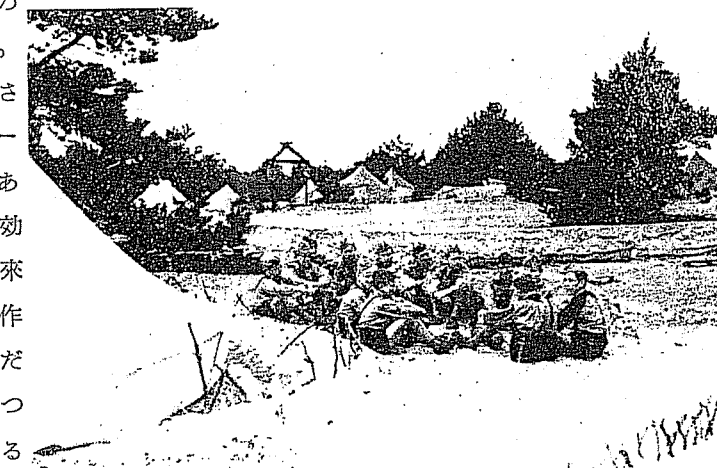
伯林に大學教授聯盟外國課(Das Auslandsamt der Dozentschaft Universität und Hochschulen Berlin)と云ふのがある。伯林に入つた多數の外國留學生や大學教授は、此の團體で催される各種の講演や見學に必ず招待される。どこで聞いたのか判らないが私の所へも時々招待狀が來る様になつた。専門の見學に忙しいので餘り顔を出さなかつたが、7月になるとヒットラー青年團の夏期幕營に案内されたのである。かねてヒットラー青年團の教育効果を日常見聞してその青年運動が從來の獨逸人と丸で別物の眞摯な青年を作りつゝある事を知つて居た私は、之だけは是非見ておこうと見學團に加はつた。早朝ロバート・コツホ廣場にある聯盟の前に集る。参加者が集合を終る



第 2 圖 獨逸少年團訓練隊(著者)



第 3 圖 幕營の門(著者)



第 4 圖 幕營(著者)

前に廣場の附近を散歩すると此の附近は各種の學會の中心らしく地學協會や醫學關係の團體の建物があ、廣場には細菌學のコッホやアミノ酸の

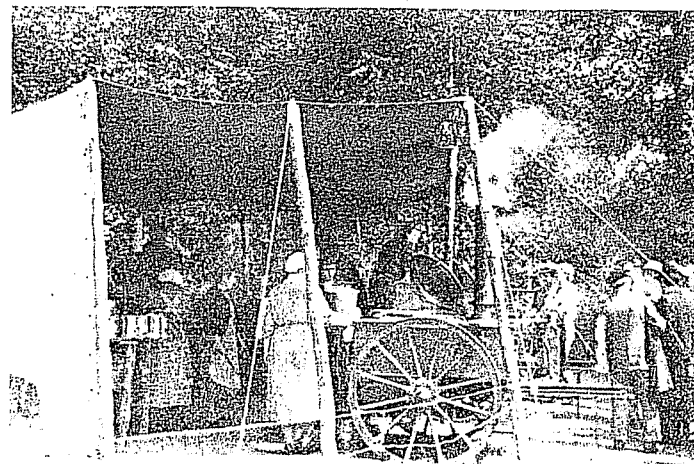
エミール・



第7圖 國旗と班旗の禮り(著者)

フイツシャの銅像等が木立の蔭にたつて居る。一天の雲もなく晴れた清々しい朝の光の中に見る之等の碩學の像を仰いで居る氣持は格別である。ナチス獨逸に受繼いで居る之等の獨逸の碩學の精神の上に、ヒットラー青年團の日本の精神教育が加はつたらば、獨逸は恐ろしい國となるであらうと今日之から見るヒットラー青年團の幕營訓練に一層興味を持たれたのであつた。

集まるものは日、伊、佛、英等の留學者の外にバ



第6圖 炊事場(著者)

ルカンの小國を總べて網羅し總勢100人を超えて居る。聯盟の世話掛A女史に紹介された後、4臺の流線形大型バスで幕營地に向ふ。獨逸が外國人に對して如何に大掛りな宣傳機關を持つて居るかは此のやり方だけでも充分納得が行くのである。

4臺のバスは緑の平原を南西に下り國營自動車道路の伯林南環狀線を通つてストルコウの附近に達し、此處でヒットラー青年團と獨逸少年團の代表に迎へられた。路傍にバスを置いて獨逸の片田舎にありふれた飲食店に入り此處で思ひ思ひに休憩を取る。田舎路におき捨てられた様な飲食店に一時に100人以上の人が押かけたので主人と女中は顔を赤くして外國の珍客のサーヴィスに大重になつて居る。店の向側の杉林の中で出迎へのヒットラー青年團と記念撮影をして居る内に出發の合圖である。我々のバスは再び埃をあげて森の中の砂道を走つた。鏡の様な湖水が夏の陽に輝いて居るのが車窓から眺められる。獨逸少年團第200團(Jungbann 200)フランデンプルグ班の夏期幕營地はストルコウの町外れ、ブクの湖畔の松林の中に設けられて居た。幕營地の入口でバスを乗捨てて白砂の上を幕營地の門に向ふ。門前には少年團の喇叭鼓隊が整列し、我々の先頭が門に近づくと

同時に勇壯な歡迎の曲を奏して呉れた。長い胴に模様を描いた大鼓、黒地にハーケンクロイツの印を染めた旗をつけた喇叭、何れもヒットラー青年團獨特の樂器であり、狩獵の民族獨逸の表徴でもある。門は森から伐つた木を組立て、柱に伯林市とフランデンプルグのマークが飾られ、2人の少年が兩手を後ろに組んで番兵に立つて居る。

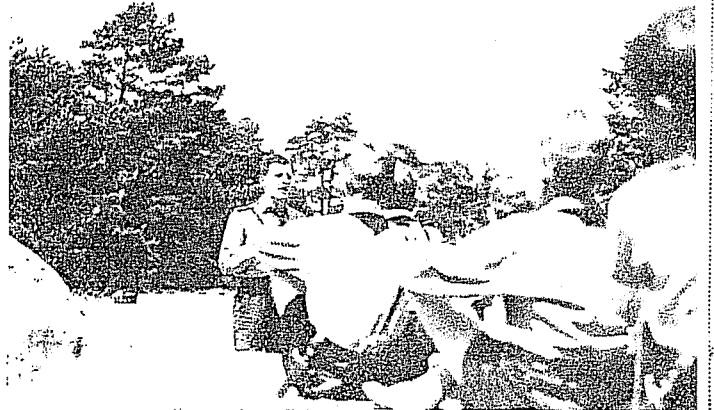
松林の中、白砂の上に白く幕營のテントが1群宛點々と張られて居る。

一同幕營長から夏期幕營の目的や現状の説明を聞いてから數班に分れてテントを見て廻る。テントは獨逸少年團の最小單位である凡そ10人の團員より成るユングエンシャフト(Jungenschaft)を一組とし之に指導者がついて居り、更に之等が4個集つたユングツーク(Jungzug)には更に年長の指導者がついて居る。ユングツークの指導者は各1個のテントを持つて居るが團員は數人宛一つのテントに入つて起居を共にし朋友精神を涵養するのである。各天幕の周圍は團員の手で清掃され砂で堤や庭園を作り野草を植え入口には木を彫刻した各種の飾りが立て、ある。テントの中には寢具所持品等が實に丁寧に一定の規則を以て整頓されて居る。10數年も前に山中湖畔で見學した日本少年團指導者訓練幕營を思出す。指導者の1人に頼んで彼の天幕を見せて貰ふと此處には電話が架設されて居る。總ての指導者が自分で架設した電話を持つて居るのであると聞かされて、流石に科學の國の少年團であると感じず。全體として10歳乃至14歳の子供としては實に規律のよい事を感じさせる。「國家社會主義の成果は規律の成果であると共に國家社會主義の青年も同様に規律と從順との基礎の上に立たなければならぬ」と云ふ標語を其の儘此處に實行して居る事を感じるのである。

テントを一通り見終つて設營の本部に行くと此處には野外の天幕病院があり、郵便局があり、ラヂオ受信所があ



第1圖 食事(著者)



第8圖 食事のコーラス(著者)



第9圖 營内の少年(著者)



第10圖 湖畔の休息(著者)

り、電話局がある。病院の中には可憐な2人の子供が力無く横はつて居る。我々は此處に入つて熱を出して居る子供の容體を聞き、覺束ない獨逸語で彼等を慰めたりした。指導者が入つて来て色々彼等の容體を説明したりする。私達の疑問はこんなであらうかと云ふ事であつたが、指導者は之に對して幕營の前には健康診断をやり、又重い病氣になつたものはすぐ町の病院に入れるし、ふだんからの體育が行届いて居ると指導者が訓練されて居るから心配はないと云つて居る。



第11圖 指導者の訓練(著者)

ラデオ受信装置も全て團員の手で架設し、之を擴声器で幕營内に放送出来る様になつて居る。又團員は伯林等にも電話をかけられる様に交換臺が設けられて居る。郵便局には繪葉書や切手も賣つて居て總て團員の手で處理されて居る。

本部の近くの小丘の上には高い旗竿が立てられハーケンクロイツの旗が翻り、其の後方に少年團の各班の班旗が飾られて居る。團旗の下には2名の護衛が兩手を後ろに組んで不動の姿勢で立つて居る。

幕營地の端には炊事場があつて薪を燃す炊事車が煙をあげて居る。午近い事を思出す。炊事場の前には各班の食事配給係が砂上に一列に腰を下ろして食事の出来るのを待つて居る。食料品倉庫に入つて見ると棚には長さ50 糎もある黒パンが並べられ、蕪菜等の乾燥野菜が貯へられて居る。彼等の食事が極めて簡素である事は驚くべきものがあるが、料理も炊事車があれば材料を之にほうり込むだけの手數で米を炊ぐ様な手數は全然いらぬ。西洋の料理に對する我々の觀念を是正する一つの発見であつた。

炊事場の見学が終つてから我々は晝食に招待される。各ユングツーク毎に砂を環狀に掘つて作つた塹壕の中に砂の腰掛が出来て居る。適當な塹壕を見付けて團員の間に居る。彼等は生れ乍らの外交官の如く、極めて自然に我々を歓迎し席に招じて呉れ、毛布を砂に敷いて呉れる。どの顔も健康に輝いて居る。やがてバケツに入れた食事が運ばれ飯盒とスプーンが配られ、飯盒の中にグーラン

ユ(Goulasch)が盛られた。角切りの肉と馬鈴薯と人参と蕪菜の煮込みである。兵隊や彼等が炊事車をグーラッシュ砲車(Goulasch-Kanonen)と云ふのも尤もである。食事の配給が済むと指導者が立上つて1人の團員を指命して食事前の言葉を述べさせた。團員は坐つた儘不動の姿勢を執り凜然と青空に響く言葉と共に黙想を行ふのである。

「人は生きなければならない。生きる爲には食はなければならない。食ふ爲には働かなければならない……」無邪氣な顔から眞摯に叫ぶ一語一語は我々の肺腑を抉る様であつた。此の眞剣な言葉は正に其儘獨逸國家の叫であるに違ひない。滅亡と飢餓の一步手前から立上つた彼等の心からの叫びである。叫びが終つて彼が着席すると今度は我々は隣同士手をつないで上下に振る昔乍らの獨逸の會食の禮儀をやつた。之が終ると同時に彼等は眞に俄かに朗かな態度に代り愉快さうな談笑が始まつた。一體いたいけな少年に依つて行はれる之等の急テムボな氣分の移り變りは、如何なる事を意味するであらうかと我々は一應考へて見るのであつた。獨逸民族程儀式のうまい國民はない。と同時にヒットラー青年團の規律に對する訓練が行届いて居る事も確かである。何れにしても新しい規律に依つて、新しい獨逸の國民が作られつゝある事は確かである。そしてそれが我々が接觸した事のある或種の古い獨逸人より遙かに立派な事も確かである。私は或る母親が「ヒットラー青年團の訓練で子供が夜もおちおち家に居ないのは餘り有難くないが、親の前に出て、靴の踵を合せて親切なそして慇懃な態度で接して來るのを見るとヒットラー青年團の訓練の有難さが判る。昔はこんな子供は一人も居なかつた」と云つて居るのを聞いた事がある。そして我國の美風を多分に取入れて居る事を知つたのである。此の私の疑問は後者に解釋するのは正當であると云つて誤りがないの

である。馬鈴薯の多い食事は我々美食國のものには決して上等ではなかつた。少年が勧めて呉れるので僅かに追加して口に流込んだ。若い潑刺たる彼等と共に話をし乍ら攝る食事でなかつたら、喉を通らない事であつたらう。食事が終ると彼等は指導者の指揮に依つて中央の砂地の臺の上つて食後のコーラスを聞かせて呉れた。指導者も共に歌つた。森の中の各所から巧みなコーラスが起り、夏雲と共に青空の中に伸びて行つた。

食後の一時は休息の時間となるのである。我々「日本の客」には特に一人の見るからに模範的な少年が一人案内役としてつけられ、午後の時間を湖畔の散策に或は水泳に共に楽しく過す様にと取計られた。案内のA君は伯林ステークリッツの少年である。我々が湖畔に腰を下ろせる様に一枚の毛布を小脇にかゝへて後ろからついて來る。碧い湖の畔りの樹蔭で湖面を眺めて休憩する。鶯鳥や家鴨が湖畔を點綴して居る。一群の團員は水泳を初める。水泳をしたい人には水泳着を借すと云つて來た。水泳國日本からの客は必ず泳ぐだらうと思ふらしく、他國の人々は我々を見て居るのであるが、我々は獨逸の水が我々に冷た過ぎる事をよく

銃の後職の場

も戰場だ

眞剣に
撃しよう
のト
ンボ
は職
場の
武器だ
戰場の
だ
のト
ンボ
は職
場の
武器だ
戰場の
だ
のト
ンボ
は職
場の
武器だ
戰場の

知つて居るので申出さない事にする。

湖の汀では一群の指導者が集つて上級の指導者から訓練を受けて居る。見て居ると獨逸が總てに採用して居る指導者システムをその儘實踐して居る。指導者は作るものではなくて自然に出来るものである。指導者は全責任を負ふべきものであると云ふ指導者システムの原理がよく行渡つて居る事が彼等の態度や言葉からよく判る。

白樺の下で腰の短刀を抜いて黙々として木を削つて小舟を作つて居る若い團員も居る。

之等の思ひ思ひの行動は午後の休息の時間らしい気分である。

案内のA君は少年團の訓練で得たらしい知識を以て日本や東京の話を書きたがり、段々我々に親しみを感じて來て寫眞機を見せて呉れとせがみ果ては父親に買つて貰つた寫眞機はもう古くなつたから、今度は此の位の寫眞機を買つて貰ひたい等と少年らしい事を云出す。

2時間の休息の後に我々は再び集合して團員の野外競技を見る事とする。今日は3週間に亘る夏

期幕營の最後の日であつて、訓練の効果を示す競技が行はれて明日は此の幕營は解散されて少年達は再びなつかしい父母の膝下に歸るのである。

少年達は幕營地から200米許り離れた野原に集合した。指導者達は健康な肉體を誇らしげに上體を裸にして、行進を行ひ、駢足や體操を行ひ次いで東西に分れて肩車の合戦をやり、最後に獨逸の昔からの競技である球奪ひ(Raufball)をやつた。至ては最小の道具で出来る様になつて居る所に大きな意味があるのである。少年團員の團體競技が終つて陽が西に傾いた頃、我々のバスは伯林へ歸つて行つた。

獨逸少年團、ヒットラー青年團と我々は實に愉快な一日を過し、そして新しい獨逸を築きつつある訓練と彼等の生活を彼等と共に體驗し、何よりも彼等が精神的なものを獲つつある事をはつきり認識したのである。そして我々の持つ精神がよく理解されて、そして取入れられて居る事を見て、將來の獨逸は矢張り我々の友人であると考へた次第である。

航空研究所
工學士

岡本哲史著

著名翼型集

第3輯

— 定價 50 錢 —